

指定管理者(優先交渉権者)決定！(指定の期間 H22.4.1~H25.3.31)

優先交渉権者の事業計画

陸奥野営場、陸奥記念館、なぎさ水族館

大野工業(株)

代表 大野 政夫

- ・なぎさ水族館等の指定管理施設を周防大島の集客・産業・エコの拠点として成長させ、油田地区の限界集落からの脱却を目指すとともに、周防大島の観光交流人口100万人達成の戦力の一つとなる。
- ・なぎさ水族館中心として、エコをテーマにした事業を多目的に展開するエコ・ツーリズムを推進する。また、自社の土木建設、デザイン各部門のノウハウを活かした運営を行うとともに地域グループ、地元漁師、フェリー会社、地元アーティスト等と連携・協力し、最終的には若者が戻ってこれるふるさとづくりを目指す。

サン・スポーツランド片添、片添ヶ浜温泉遊湯ランド、青少年旅行村

(社)東和ふるさとセンター

代表 藤野 信夫

- ・近年、利用者ニーズが大きく変わり、各施設の本来機能の発揮と地域内他施設との連携により、集客力を向上させることが最重要課題であるが、これまでの運営ノウハウを生かすとともに、更なる工夫を凝らして施設の魅力向上を図り、より幅広い利用者サービスの提供に努め、利用者の満足度の向上を図る。
- ・業務のマニュアル化を図るとともに、利用者の要望・苦情処理・利用・維持管理等の状況を記録に残し、町との綿密な協議のもと適切に管理運営を行い、町に対して適宜報告を行う。

久賀歴史民俗資料館、町衆文化伝承の館、町衆文化の薫る郷公園

NPO法人周防大島自然体感クラブ

代表 田中 豊文

- ・町民の文化拠点、交流の場として位置づけられている当該施設を活用して自主事業を展開するものとし、施設の利用促進につなげることを目的として次の事業を展開する。 歴史文化学習事業 生涯学習支援事業 企画展事業 体験学習事業 地産地消推進事業 町衆文化スクール事業など。

日本ハワイ移民資料館

大島国際交流協会

代表 川野 憲生

- ・資料館の充実、サービスの向上に努力し、町外からの利用者のみならず町民の利用の増大に努力する。資料館が名実ともに国内有数の文化施設・観光施設になるように努力する。

周防大島町総合交流ターミナル

(有)サザンセトとうわ

代表 吉村 正晴

- ・道の駅という確固たるブランドを有していることを再認識して、広く住民の健全な利用に供し、施設を最大限に活用するべく、その施設環境を整える。
- ・事業の2本柱となる物産販売・郷土料理の提供については過去の実績から、商品の品揃え、メニュー、販売・委託方法、売上・収入、管理方法、人員配置等の運営の基本方針は継続するが、加えて町交流人口100万人の大目標に向け、その他公共施設、公共宿泊施設と連携し、その増大に寄与したい。
- ・総合的な地域物産の集積場所、観光情報の集中中継点として、利便性の高い道の駅としての地位の確保を目指す。
- ・人の集まりやすい楽しい場所であることを前提に、朝市等地元出展者との協同により、お祭り広場的な場所の創出に努力する。
- ・繁忙期の施設定休日も営業するなど、今後も引き続き利用者サービスの向上に努める。

竜崎温泉潮風の湯

藤本グループ

代表 藤本 敦生、松村 良一

- ・地域の皆様に奉仕できる、営利を目的としない社会福祉の経営を行う。なお、今は、社会福祉法人「松風会」の松村理事長と2人で本団体を立ち上げているが、株式会社の設立を考えている。また、町所有施設のため設備投資がない分、利益が出たときは、できる限り町に返還したい。
- ・医師・看護師など、関連する社会福祉法人の先生方の協力を得て、プール等を利用した健康づくり事業を行い、住民等利用者の健康増進を図る。
- ・地元住民との親睦を図るため、フラダンスのイベントほか、新人歌手等を招き、歌を聴きながら食事をしていただくような企画を実施したいと考えている。
- ・危機管理面では、直ちに警察・消防・救急等の関係諸機関に通報し、外部に公表するなど、法的なルートにより問題解決に努める。
- ・当温泉の特異な泉質・湯色を適正に維持し、かつ衛生的な管理を実現させるため、温泉機械設備等の管理は専門業者に委託する。
- ・企画、管理及び修理など、何事も設置者である町と協議しながら行う。